ベニシダレザクラ（高楽寺）

天に翼を広げて舞うような枝振りのシダレザクラである。優美で、幽玄なその姿から、「桜姫」と呼ばれるようになった。お彼岸の頃いち早く花が咲き、枝が垂れ下がるところから、別名を「糸桜」とも言われている。多くの愛好者で賑わう。

国の天然記念物の福島県三春町の「三春滝桜」、秋田県角館の滝桜に劣らぬ名桜といえる。

◇散歩のみどころ

ＪＲ高尾駅北口から出発し、初沢城跡周辺をぐるりと巡り、京王線高尾駅南口までのおよそ五㎞の行程。

高尾駅を出て初沢踏切を南へ渡ると右角におもり地蔵、そこを左側に行くと、北向き観音を安置している大光寺。初沢川沿いに歩き、高乗寺総門跡の総門地蔵へ。右の山を登ると浅川金刀比羅大神社。更に川沿いに行くと、まむし地蔵。日本軍が掘った地下壕入口、そして高乗寺に着く。南斜面には山王神社がある。初沢川の初音橋を渡り、団地の中を過ぎると東京都指定の山城、鎌倉時代まで遡る初沢城跡山頂本曲輪に到着する。城跡内の北路を下ると、菅原道真公銅像と、みころも霊堂に着く。更に真福寺川を上流へと歩くと、子守地蔵の真福寺。高尾駅へと戻る途中に、七地蔵があり、枝垂れ桜、洞窟観音の高楽寺。そして北条氏照勧請の御嶽神社を参拝。高尾駅で解散。

●初沢の地名考

ＪＲ高尾駅のすぐ西に初沢町がある。沢の名から取った町名だが、このハツも「墓」を意味する言葉である。果つる所がハツで、初は当て字である。

かつて墓所であったが故に、寺が建てられたのであろうか。ここには、名刹といわれる高乗寺がある。

また、新編武蔵風土記稿には「花沢」とあり、武蔵図絵には「華沢」と記されている。いずれのハナも、鳳仙花の花を指しているのではないかと言われている。

①高尾駅

ＪＲ中央線、旧浅川駅。明治三十一年（一八九八）六月八王子駅から大光寺前駅（高尾駅）間の試運転を実施した後、明治三十四年（一九〇一）八月一日浅川駅として開設。現在の駅舎は、昭和二年（一九二七）に新宿御苑に作られた大正天皇の大葬用仮停車場を移築したもので、全国的にも珍しい木造駅舎である。

明治時代の中央線は甲武鉄道と呼ばれ、大正時代は省線電車と呼ばれた。戦後は日本国有鉄道の設置により、国鉄・国電の時代となる。昭和三十六年三月二十日高尾駅と改称した。しかし、昭和六十一年（一九八六）四月一日に民営化され、ＪＲ東日本鉄道の経営になった。ちなみに高尾駅一番線ホームの東側跨線橋登り口付近の鉄柱には、米軍による銃弾のあとがはっきりと残っている。更に、昭和二十年（一九四五）八月五日、高尾駅（旧浅川駅）より少し下った、湯ノ花（旧猪の鼻）トンネル付近で米艦載機が満員状態の列車に対して執拗な機銃掃射があった。戦時中鉄道史の中で、最も犠牲の大きい事件となった。

関東の駅百選認定の札

JR 高尾駅北口

改築前の浅川駅（大正末）
八王子市郷土資料館提供

JR 高尾駅一番線ホームに残る銃弾の跡
（ 柱番号 31 と柱番号 33 にある）

駅前の市街地

戦時中の浅川駅前
現在の高尾駅北口

②こもり地蔵（辻地蔵）

高尾駅西側初沢踏切の南脇に三体の地蔵様が安置されている。この地蔵様は昔から、こもり地蔵または辻地蔵とも言われている。三体の地蔵様の台座には、右側　左大山道
右初沢道
中央　念佛供養
左側　寛保二壬戌稔
七月□日

と刻まれている。

旅人が道に迷わぬように道案内の役目をしたり、願い事を叶えて貰うための地蔵であり、地蔵が子供のこもりをしたという伝説も残っている。

こもり地蔵（辻地蔵）

初沢の辻地蔵

こもり地蔵（辻地蔵）

こもり地蔵台座右側
（辻地蔵）

③正名山地蔵院大光寺

初沢町一三五二

宗派　真言宗智山派系単立
本尊　喜多向阿弥陀如来座像
寺宝　阿弥陀如来
　　大般若経六百巻
　　大曼荼羅図（金剛界、胎蔵界）
開基　源恵上人
　　高尾山薬王院第九世
開創　元和元年（一六一五）

初沢踏切の近くに正名山地蔵院大光寺がある。ここは多摩四国八十八ヶ所霊場第七十番札所である。中興

開山広雄上人より今日まで十五世を数える。

古文書（天明五年（一七八五）四月中興第六世憲善上人の記述）によれば、本堂は九十一畳の広さを持っていた。境内は、杉・さわらなどの樹木五・六千本余を有し、備蓄金百三十両余とある。往事の隆盛期には、九通の御朱印と御朱印地を賜っていた。明治十年頃、関東綱五郎（本名鈴木綱五郎）により庫裏を寄進されている。明治十五年（一八八二）本堂と庫裏が焼失。

明治三十四年（一九〇一）十月十四日、高尾山薬王院第九世源恵上人の創建による高尾山薬師堂を移築し、当時金百円を納入、本堂を再興した事が「石川日記」に書かれている。その後、年月を経て老朽化が甚だしいため、昭和五十年新造再建された。また、斎場を兼ねた檀信徒会館を平成十一年十二月に落慶し、現在に至る。

大 光 寺

北向き阿弥陀如来坐像

●関東綱五郎墓之跡碑

綱五郎が生まれた高尾町落合の小高い斜面の墓地に、御影石で作られた大きな石碑が建っている。正面には関東綱五郎墓之跡とあり、裏には次のように刻まれている。

「鈴木綱五郎（綱之助）は鈴木家の六代目に当り祖先は甲州武田家滅亡により旧浅川村落合に移住す。文政五年（一八二二）に生まれ青年期は幕末に当たり世は騒然とし狭い浅川に座する事が出来ず、家を出て関東綱五郎と名乗り侠客の仲間に入り遂に清水次郎長の門を叩きその客分となり、世に名を挙げ初老期に帰郷して村民の面倒を見る。当時の住居約四十五坪総欅作りの家屋を明治十年頃菩提寺の大光寺庫裏に納め隠居し明治十九年十一月一日（一八八六）歿す。墓は昭和五十二年三月二十七日大光寺構内に移転す。

昭和五十二年七月十三日

実孫　故　持田ツネ

八代目嗣子　医博　鈴木幸雄
実孫の夫　医博　持田治郎建之」

また、別の資料には、侠客、本名鈴木綱五郎。上椚田村（現在高尾町落合）千人同心鈴木惣七の子として生まれる。成人し上州館林（現在の群馬県）へ、のち山本長五郎（通称、清水の次郎長）の客分となる。

荒神山で、博打が元で起きた喧嘩に大政、小政らと乗り込む。明治十九年（一八八六）四月。のち京都で火薬商を営みその後生家に帰る。六十三才で没す。初沢町大光寺に墓がある。

関東綱五郎の墓

関東綱五郎（本名：鈴木綱五郎）

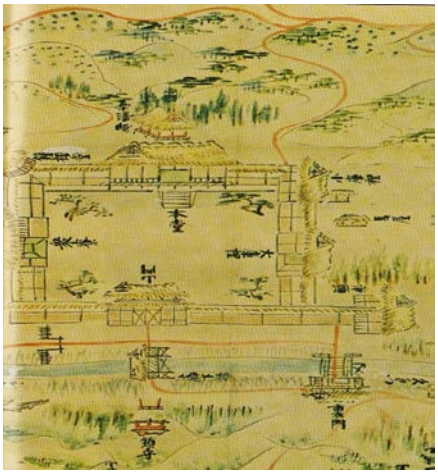
侠客関東綱五郎住宅跡

関東綱五郎墓之跡

●惣門の地蔵様

浅川中学校下の北側に初沢川が流れている。その角に、座った地蔵様が安置されている。土地の人は、この地蔵様を惣門地蔵と呼んでいる。その近くには、曹洞宗龍雲山高乗寺總門跡と刻まれた大きな石塔が建っている。高乗寺絵図を見てもわかるように、大きな門が描かれている。今では門跡が定かではないが、この付近であろうという。地蔵様は、「寺は奥の奥だよ」と交通安全を兼ねた道案内をしている様にも見える。

惣門の地蔵様



高乗寺絵図

●浅川金刀比羅宮

高乗寺總門跡から高乗寺へ向かう右側に、金比羅大神社へ続く急坂がある。高さ二百五十六ｍの山で、山頂に社がある。創建は不詳。日本では金刀比羅宮の信仰に基づき、漁師と海上交通安全の守護神とされている。

浅川の金刀比羅宮

浅川の金刀比羅宮の内部

④まむし地蔵

惣門地蔵から途中旧道の道を暫く行くと、龍雲橋の袂に地蔵座像が安置されている。通称まむし地蔵と呼ばれている。昔の寺の境内は、鬱蒼とした所が多く、村の人がマムシに噛まれることが多かったという。特に山仕事に入るときは地蔵に参詣し、マムシに噛まれない様に祈ったという。

高乗寺由来記には、「爾来当山に入る者一塊の石を積みて、まむしの害を免れるを願いしと謂う」と記されている。今でも、地蔵には水と花が絶えない。

まむし地蔵全景

まむし地蔵

⑤浅川地下壕

初沢町・西浅川町

浅川以下壕は当初、軍事施設を隠す目的で作られた。第二次大戦末期、昭和十九年（一九四四）六月、日本軍が絶対まもらなければならないとしていたサイパン島にアメリカ軍が上陸。七月に日本の守備隊が全滅。ここを基地としてアメリカ軍のB29爆撃機の日本本土への空襲が可能になった。これに対し軍部指導者は、アメリカ軍を本土で迎え撃つという「本土決戦」という無謀な方針を立てる。そのために全国各地に地下壕を掘り軍事施設を隠す計画を立てた。浅川地下壕も、この計画の一つとして計画された。初めは陸軍東部軍の地下倉庫として土地が強制的に買収され、昭和十九年（一九四四）九月に工事が開始された。

●イ地区の地下工場跡

イ地区は、優れたトンネル掘削技術により昼夜三交代の突貫工事で進められ、わずか六ヶ月で幅四m高さ三m、総延長四・二kmを完成させた。

一方、昭和十九年（一九四四）十一月からB29による本土空襲が本格化した。十一月二十四日には、武蔵野市にあった中島飛行機武蔵製作所が大規模な空襲を受けた。

中島飛行機は航空機のエンジン工場としては日本最大規模で、戦時中は全航空機エンジンの二十七％を生産していた。この工場の疎開先として浅川地下壕が選ばれた。六月から生産が開始されたが、八月までの二ヶ月でわずか十台のエンジンが生産され終戦を迎えた。

●ロ・ハ地区（第二期工事）

イ地区完成後すぐ第二期工事として、ロ・ハ地区が掘られた。しかし、完成しないうちに終戦を迎え工事は中断。特にハ地区は、坑道も直線にもなっていない所が多くある。

●地下壕を掘った人々

地下壕は、岩盤にドリルで穴を開けそこにダイナマイトを仕掛け爆発させて崩し、土砂を外に運び出してさらに掘り進むという方法で掘られた。この過酷な労働を担ったのが日本人や朝鮮人の親方に引き連れられてきた朝鮮人労働者だった。その数について斎藤勉氏は、その著「地下秘密工場」で一千百人と推定している。

明治四十三年（一九一〇）以降、日本は朝鮮半島を植民地とし土地を奪い、日本語を強制し、名前を日本風に改めさせるなど同化政策を推し進めていた。この結果、仕事を求めて沢山の人々が朝鮮半島から日本に渡って来て生活をするようになる。

昭和十二年（一九三七）、中国との戦争開始により日本国内の労働力が不足してくる。日本国内でのダム工事、鉱山などの労働力を確保するために、日本政府は朝鮮半島からの強制連行を始める。朝鮮半島からの人達の数が、さらに増える結果となった。

●終戦後の朝鮮人労働者

昭和二十年（一九四五）八月十五日、日本が敗戦を迎えると直ちに地下壕工事は中止された。ここで働いていた多くの朝鮮人労働者はすぐに帰国の準備を始め、当時の浅川駅から列車に乗り込んで、その年の暮れにはほとんどの人達が地下壕を去って行った。なかには住み着いた人達もいる。

●戦後の地下壕

敗戦後すぐ、アメリカ軍が壕内に入り使用されていた地下工場の機械・設備は接収され持ち出された。壕内から出されていた大量の土砂は、民間によって都内の道路建設のために運ばれ利用されていった。

その後、イ地区北半分は民間の土地となり、昭和四十五年（一九七〇）には、一時期「陸軍参謀本部跡」と銘打って有料で公開された。しかし、安全性に問題ありとして八王子市より中止の要請があり公開を中止した。その後、壕内が年間を通じて十度前後の温度であることを利用して、マッシュルームの栽培やワインの貯蔵庫などにも利用された。

●地下壕調査の開始

その後、地下壕の本格的な調査が始まったのは、昭和五十五年（一九八〇）。八王子市が「八王子の空襲と戦災の記録」（昭和六十年・一九八五年刊）の編纂のための調査を開始した。

当時、都立高校教諭であった斎藤勉氏は、この調査に関わりその成果を平成二年（一九九〇）「地下秘密工場」（のんぶる社）としてまとめた。

ロ地区の上にある団地で陥没事故が発生し、また私立高校の移転問題などで地下壕への関心が高まった。

その後、文化庁が平成十四年（二〇〇二）八月に、全国の戦争遺跡の中から浅川地下壕を詳細調査の対象とすると発表した。

イ地区の北側の東西に伸びる
2本のトンネル

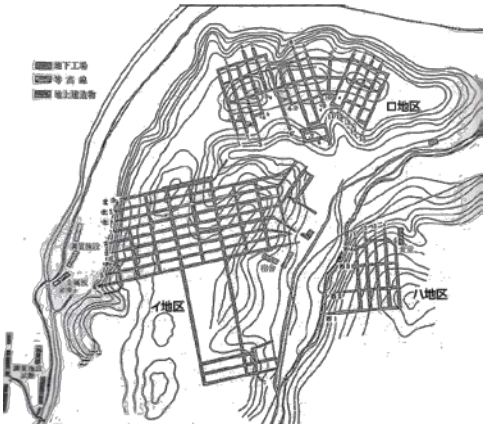
地下壕内部

地下壕にかかっている寒暖計

トロッコの枕木跡

昔、マシュルームの栽培をしていた
が、今は赤い鉄格子で塞がれている

ダイナマイト搬出用に補強した鉄枠



浅川地下工場全体配置図

地下壕内部（一部が崩落しているヶ所）

八地区の地下壕入口
（ 京王高尾線の高尾と高尾山口間の線路脇 ）

地下壕への引き込み線
昭和 21 年 3 月末米軍撮影
上部は浅川駅（現、高尾駅）

⑥龍雲山高乗寺

初沢町一四二五

宗派　曹洞宗通幻派
　　群馬県最興寺末
本尊　釈迦如来
寺宝　阿弥陀如来
開基　片倉城主長井大膳太夫高乗
　　（広秀）
創建　臨済宗山田広園寺
開山　法光圓融禅師峻翁令山大和尚
開創　応永元年（一三九四）

多摩八大寺の一つ。この寺は、荒廃した状態が続き、長禄元年（一四五七）に伽藍を興し、永正二年（一五〇五）群馬県甘楽郡最興寺の通庵浩達大和尚が勧請し、曹洞宗として中興開山した。

弘治三年（一五五七）の高乗寺絵図によれば、山門・本堂・大小庫裡・衆寮・浄頭など全て回廊でつなぎ、境内には、天桂院・日陽幹など塔中七院などが描かれていることからも、寺の大きさをうかがうことができる。

永禄八年（一五六五）には、八王子城主北条氏照から門前五間分の税が免ぜられ、続いて天正十九年（一五九一）御朱印十石を拝領している。

江戸時代には、塔中七院末寺三十八ヶ寺を擁する大寺院としての風格を備えていた。

現在の本堂は、明治十六年（一八八三）愛川町半原の名工柳川左仲郎が改修し、昭和二十八年（一九五三）地元高尾町棟梁峰尾忠三により大改修がされ、昭和四十年ごろ観音堂を移転している。詩人、劇作家である寺山修司の墓がある。

●鳳仙花の里

初沢川が流れる高乗寺周辺は、鳳仙花の里と呼ばれていた。その昔、石平道人の弟子で大元道人という僧が初沢の奥まった所に庵を建て住んでいたという。大元道人は、村人に田んぼの作り方や梅の栽培方法、縄の綯い方、食物の保存方法、種撒き刈り取りの日時など農耕に必要な生活の知識を教えた。

特に、マムシに噛まれた時など、ホウセンカの汁で作った塗り薬を手早く塗り、毒が全身にまわらないように手当をしてくれたという。そして、大元庵の周りには、ホウセンカの花が咲き乱れていたとか。初沢を昔は、はな沢とも呼んでいたという。

ある時、令山上人が高乗寺を開かれるため、山の谷間を歩いていると、あたり一面花が咲き乱れている所があった。上人はここを霊地とし、高乗寺を建てられたという。

高乗寺

本堂

梵鐘

●十八代官

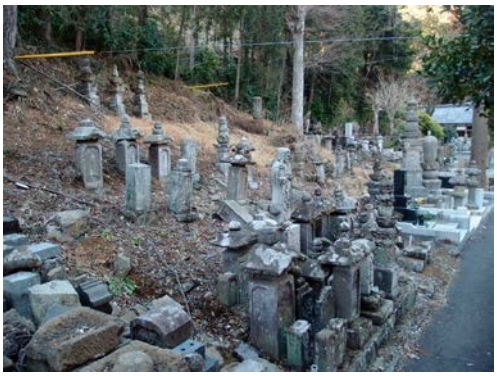
今井九右衛門の墓

高乗寺本堂の左側に、以前からの古い墓場がある。その中程に九右衛門の墓や八右衛門、深谷忠兵衛三代、それに千人同心組頭窪田家の墓などがある。

今井九右衛門は元武田氏の家臣、のち八王子十八代官の一人となる。屋敷は八幡宿または、八日市宿にあったという。家紋は、三階菱である。

関東十八代官（八王子代官）は、始め大久保石見守長安を総代官とする十八家の世襲による役職であった。

家紋　三階菱



今井九右衛門昌安と今井八郎右衛門忠昌の墓

●長安と小宮山民部

小宮山民部は、天正年間の人で、元武田氏の家臣、その後長安の配下として佐渡金山の目代をしていたという。慶長七年（一六〇二）十月四日。小門宿に陣屋を構えていた大久保長安の屋敷が火災に遭った。長安は再建のため、高乗寺付近の山から木を切り出す要請をした。民部はそれに携わったと思われる。その年の十二月に長安の使者が、寺へ謝礼の品を持って来た旨の記載が要請文沿革史に載っていることでも判る。

ちなみに、民部の娘らは千人頭である原胤従や河野通玄に嫁いでいる。

●松の木伝説

初沢の奥まった所に機織松という松の木伝説がある。尼寺の尼さんが、機織りを村人たちに教え広めたという。新編武蔵風土記稿にも百済からの帰化人がこのあたりに住み、綿・絹糸などから布を織る技術を伝えた

と記されている。尼寺の庭には、一本の松の木が植えられていたという。今では、伝説だけが残っている。

詩人　寺山修司の墓

初沢川

⑦初沢城跡 都

八王子市の西部、高尾の街並の南に初沢城跡がある。初沢城は海抜二百九十四ｍの初沢山にあり、北に南浅川、西に初沢川、東に湯殿川をめぐらす要害の城であった。

初沢山

鎌倉時代初期、武蔵七党の一つ横山党の椚田太郎重兼が、山麓に館を構えたとされている。横山党一族は、和田義盛の乱（健保元年・一二一三）に連座して滅亡。鎌倉幕府の重臣大江広元の流れをくむ長井氏の領有するところとなった。長井氏は、湯殿川下流域の片倉城を本拠とした。応永元年（一三九四）長井広秀が出家して高乗と称し、初沢川谷奥に龍雲山高乗寺を開基している。初沢城の城郭も、このころ整えられたらしい。

山内上杉顕定と扇谷上杉朝良が争った永正のころ（一五〇四～二一）の城主長井広道は、扇谷方に属したために、同元年、越後（新潟県）の上杉房能勢を主力とした山内軍に攻撃を受けて落城。広道も最期を遂げた。関東騒乱の時代、初沢城が重要な戦略拠点になっていたのがうかがえる。

小田原に起こった北条早雲が、永正七年（一五一〇）に西武蔵に侵入。攻め落とされて、以後初沢城は小田

原北条氏の持ち城となり、北条氏と運命をともにすることになる。

初沢山に向かうと、まず金色に輝くみころも霊園の壮大な堂宇が目に入る。産業災害犠牲者の慰霊堂である。その右手の高台に、高尾大神社と大きな菅原道真の銅像が立っている。この辺りに、城主椚田太郎が住んだ館があったという。北に、廿里山の古戦場が見渡せる。

神社境内の左側から細く急峻な大手口を登ると、途中に数段に分けて築かれた出郭跡がある。山頂の本丸跡は、広さ十数㎡ほどで土塁・空堀跡も残る。南の搦手口は紅葉台団地として開発され、本郭跡直下まで住宅群が迫っている。

初沢城跡

初沢城跡山頂

⑧菅原道真公銅像

御衣公園内に大きな銅像が立っている。これは、学問や書の神様と崇められた菅原道真公の銅像である。

「東風吹かば　匂ひおこせよ　梅の花　主なしとて　春な忘れそ」

文人であった道真公は、今から一千年以上も前の人である。宇多天皇に重用され、清廉潔白な政治家として活躍した。醍醐天皇の御代には、右大臣にまで昇進したが、藤原時平の陰謀により失脚し、延喜元年（九〇一）九州の太宰府に左遷された。この時、遙かな都を思う心情を歌ったのがこの歌である。

この銅像は、昭和七年上野で開催された「万博こども婦人博覧会」に公開されたものである。作者は渡辺長男氏。

博覧会後、銅像の安置場所が未定であったこと、また多摩御陵が八王子の横山の地に決まった事などを記念して同地に誘致をすることになった。

昭和十一年（一九三六）、町の素封家山口安兵衛氏から土地の寄贈を受けて工事が始まった。道真公が梅の花を好んだことから、付近には梅の木が植えられている。

『月輝如晴雪梅花似照星可憐金鏡転庭上玉房香』（月岡芳年『月百姿』）11歳で漢詩を作った

菅原道真公銅像

⑨御衣公園

狭間町一九九二

御衣公園の「みころも」とは、菅原道真公が詠んだ漢詩「九月十日」の中に出てくる「恩寵の御衣いまここにあり」からとったものであり、今も詩吟の一つとして詠まれている。

学問の神様としての尊敬からか、特に二月の受験期には中・高生の訪れも多く、また家族連れの散歩コースとして賑わっている。

●高尾みころも霊堂

高尾みころも霊堂は、労働災害で殉職した人々のための慰霊堂兼納骨堂である。

パゴダ風の建物は、労働福祉事業団が労働者と協議の上、労働災害保険法施行二十周年記念行事として、国費並びに民間有志の協力のもとに昭和四十七年六月に設立されたものである。

堂周辺は自然環境の中にあり、沢の水を塞き止めて大きな湧水池になっている。堂内には、有名画家の絵や彫刻が飾られている。

みころも霊堂

⑩水沢山真福寺

狭間町一九二五

宗派　真言宗　智山派

本尊　胎蔵界大日如来

　　薬師如来

寺宝　北条氏照の虎之朱印が記された古文書

開創　戦国時代後期

当時の由緒は詳らかではない。戦国時代後期の開創で、正親町天皇の御代、法印長慶（永禄八年・一五六五年示寂）が中興したといわれ、大本山高尾山薬王院の末寺である。もと下椚田村の山王社、原宿十二社権現の別当寺であった。

本尊は胎蔵界大日如来であり、山王権現の別当寺であった関係で、本地仏・薬師如来も祀られている。本堂内には、日蓮上人の作と伝えられる大黒天が安置されている。殊に境内に勧請された地蔵尊は「こもり地蔵」と呼び親しまれている。この尊像は幼逝の供養と共に、現在の子供

や孫が、健やかに成長するようにとの願いを託する思いが込められている。慶長年間（一五九六～一六一五）には、この近くに居を構えていた時の代官、設楽源右衛門の祈祷寺でもあった。

真福寺

こもり地蔵

地蔵尊

●狭間の七地蔵

六地蔵が普通であり、七地蔵は珍しい。狭間の真福寺川のほとりに安置されている。この七地蔵さまは真ん中に坐像尊があり、左右三体づつ立っている。

里の語りでは、村の凶難を払い、祥福を祈念したという。また八王子三十三観音巡りの折、この道が鎌倉往還でもあり、大戸の観音さまへの道標だったという。七地蔵の碑には「おおとくわんみち」と刻してある。

狭間の地蔵

●獨峯山高楽寺

狭間町一八六八

宗派　真言宗智山派智積院
本尊　大日大聖不動明王
開山　高尾山薬王院　法院観応上人
創建　天文二年（一五三三）

高楽寺は、現在地より奥の山にあったものを移転した。伝えでは、天元二年（九七九）頃とされる。当時は、武士集団の横山党がこの地一帯を牧場としており、武将の一人である椚田次郎広重が椚田の地に居城を築いた。峰山つづきの平坦な土地を峰開戸と言い、そこに椚田次郎の手で御堂を建立した。後の高楽寺の先駆である。

高楽寺

●ベニシダレザクラ

狭間町・高楽寺境内

天に翼を広げて舞うような優美さ、幽玄さ。満開の時は笠をかぶったお姫様に似た姿から「桜姫」と呼ばれている。幹の周り四m、樹の高さ十五m、枝の広がり十五m、樹齢約二百年。以前境内には三本の桜が植えられていたというが、今残るのはこの一本だけである。かつて枯れかけた時もあったが、中野区野方の空師飯田照夫・清隆親子が、木のウロを修復、土壌改良を行い蘇らせた。今も花見の見物客で賑わう。

枝垂れ桜

●高楽寺横穴石仏群

高楽寺の裏山には、全長約三十m、コの字型の横穴がある。中に三十三体の観音石像が安置されている。天明四年（一七八四）から五年にかけて作られたものである。

江戸時代後期、全国的な規模で大飢饉が起った。これは、江戸時代の三大飢饉の一つで、その最大のものが天明の大飢饉である。八王子も例外ではなく、当時の記録から悲惨な状況がうかがえる。時の住職了弁（りょうべん）は、五穀豊穣と悪病平癒を祈願し、独力で本堂の裏に横穴を掘った。近郷近在から浄財を集め、三十三観音像・毘沙門天像など、自ら石仏を刻み安置したという。

三十三観音像の一体一体には、寄進者の名前と居住地が刻まれており、八王子宿のほか、上椚田・散田・小比企・横川・恩方・打越などの村人が名を連ねている。飢えや病からの救いを願って寄進したもので、貴重

な資料となっている。
観音像の顔つきが穏やかであればあるほど、了弁和尚の平和への祈りの強さが伝わってくる。

お薬師様と薬師如来

横穴の石仏群

青面金剛

左：毘沙門天　中央：弁天　右：不動明王

●一反地蔵

高楽寺には、その昔行き倒れになりかけていた商人を坊さまが衣に包み助けてあげたという。
助けられたら商人は、すっかり元気になり再び高楽寺を訪れ「いったん」命を落としかけ助けてくれた礼として、畑一反を寄進したという昔話が今でも語り伝えられている。

一反地蔵

⑫御獄神社

狭間町一九六〇

祭神　日本武尊
創建年不詳
例大祭　八月第三日曜

狭間地区の人々によって祀られた祠。昭和年間（一七六四～一七七一）の火災により古記録を焼失している。例大祭では獅子舞が奉納される。これはかつて氷川神社に伝わったものであるが、天正十八年（一五九〇）北条氏照から獅子頭を賜った事からはじまったという。

御嶽神社

●狭間の獅子舞

狭間町の鈴木俊造氏所有文書によると、八王子城主北条陸奥守氏照の持っていた獅子を、横地監物・近藤出羽之助の取持ちにより狭間村に拝領になったことから獅子舞が始められたという。付属芸能として、「天然理心流」の棒術もおこなわれている。

以前には、高尾町（旧浅川町）の氷川神社に奉納されていたが、明治五年行政区域の変更により、狭間の御嶽神社に奉納されるようになった。

また、獅子舞で使われる軍配は昇り龍下り龍の絵柄を二本、漆で塗り込んで作ったといわれるもので、識者が見たところ、獅子舞より古いものかもしれないという話もあります。そして昔、この軍配を預かっていた家が火事になりかけた時に、大雨を降らせてその火を消したという話が実話として残されています。

狭間の獅子舞

軍　配

狭間獅子
（八王子市指定無形民俗文化財）
獅子は背に五色の弊束をさして舞い、獅子が一 服した時は「魔人」と書いた軍配で獅子頭を撫でるように扇ぐ所作に独特のものがある。

狭間の獅子舞

◎参考資料

・関東綱五郎の生涯　大谷竹雄著
・八王子事典
・新編武蔵風土記稿
・八王子の歴史と文化
・八王子地名考　鈴木樹造著
・高乗寺由来記
・高乗寺沿革史
・図説歴史散歩事典
・八王子発見路地散策案内　中島善弥著
・自然と史跡の探訪ガイド　高尾駅界隈
・浅川地下壕の保存を進める会
・八王子寺院めぐり　仏教協会青年部著
・国土地理院蔵
・桑都民俗の会
・八王子市郷土資料館資料
・インターネット各ページ
・昭文社
・八王子市観光マップ
・八王子市地図

メモ